



### 高崎市におけるDXに関する取り組み

高橋 淳  
(新風会)

**質問** 窓口業務のデジタル化を進めることで市民にどのようなメリットがあるか。

**回答** デジタルツール等を有効活用することで、対面だけでなく、市民に身近な場所や自宅でもさまざまな手続きがオンラインで可能になるなど、窓口の多様化、充実化が進む。また、各種手続きの方法が紙からデータへ移行していくことで、申請書の作成などが簡単になり、市民の負担軽減につながることも期待できる。

**質問** マイナンバーカード

の空き領域とは何か。また、その活用方法は。  
**回答** マイナンバーカードのICチップ内には、マイナンバーやコンビニ交付等で活用する電子証明書のほか、行政機関や民間事業者も含め、幅広く利用可能な空き領域が存在する。その活用例としては、図書館利用券や職員証の代わりとして利用することなどが考えられるため、本市での有効活用について今後研究を進めていきたい。



### 第9期介護保険事業計画 母子家庭への支援

逆瀬川 義久  
(公明党)

**質問** 第9期介護保険事業計画に向けて、本市の介護保険料の区分をさらに多段階化する考えは。また、介護保険基金の活用により現在据え置きとなっている保険料の今後の見通しは。

**回答** 本市の介護保険料は、国が9段階を標準とする中、独自に12段階としている。第9期介護保険事業計画に

おいても、所得に応じた負担となるよう適正な多段階化を検討する。また、介護保険基金の残高は令和5年10月末現在で約25億6千万円となっており、基金の有効活用により保険料の算定を適正に行っていくたい。  
**質問** 母子生活支援施設あすなる寮を退去する際、清掃費用等の負担は生じるか。



活気に満ちた高崎まつり

**回答** 入所者が退所する際、居室の使用状況によっては清掃や壁紙の張り替え等が必要となるため、退所後の生活に支障がないよう考慮



### 新型コロナウイルス感染症 5 類移行後の本市のイベント

白石 隆夫  
(新風会)

**質問** 新型コロナウイルス感染症の5類移行により、イベント開催の考え方や進め方などどのような変化があったのか。

**回答** 本市では5類に移行する前から、全国でイベントの中止が相次ぐ時期にも、徹底した感染防止対策を講じながら高崎だるま市や高崎まつりなどのイベントを開催してきた。5類に移行してからは対策の内容を少しずつ軽減しており、現在



### 有害鳥獣対策 牛伏山を花で囲むプロジェクト

樋口 哲郎  
(新風会)

**質問** 有害鳥獣の捕獲体制と実際の対応状況は。

**回答** 有害鳥獣の捕獲は、各地区の猟友会員で組織される高崎市鳥獣被害対策実施隊が担っており、有害鳥獣の出没情報に基づき、状況に応じてわなやおりなどを設置している。また、わなやおりが正常に機能するか日々のパトロールで確認し、捕獲および捕獲した鳥獣の処分を行っている。

**質問** 令和6年度から計画している「牛伏山を花で囲むプロジェクト」について、改めて事業の内容は。

**回答** 牛伏山を花で囲むプロジェクトは、自然豊かな牛伏山に四季折々の花木や花卉を植え、一年を通じて山を彩り、さらに多くの人にハイキングや観光で立ち寄りてもらえるよう、新たに2万平方メートルを5カ年で整備する計画である。また、地域住民やボランティアが保全活動を行うことで、牛伏山を吉井の地域づくりの拠点としていけるよう計画している。



### 万引き犯罪対策 孤独・孤立対策

横田 卓也  
(市民クラブ)

**質問** 各商店街や店舗での万引き対策の現状は。

**回答** 多くの人が行き交う商店街では、万引きやひったくりなどの対策として、防犯カメラを活用している。本市においても、公共の安全維持を目的として防犯カメラを設置しているほか、商店街に対して街路灯の設置費を一部補助し、犯罪が起きにくい環境を整え、誰もが安全に買い物できる商店街づくりを支援している。

**質問** 令和6年4月に孤独・孤立対策推進法が施行されるが、本市の孤独・孤立対策の考えは。  
**回答** 本市では、これまでも福祉・保健・教育などさまざまな分野において、あらゆる心配事の相談を受け、それに対する支援を行ってきた。孤独・孤立の対策についても、それぞれの専門分野で対応することが迅速かつ適切な支援につながるかと考えているため、法律の施行後においても、各担当部署において引き続き取り組んでいきたい。



### 福祉医療制度の拡充 飼い主のいない猫の対策

谷川 留美子  
(無所属)

**質問** 満18歳に達する年度末を過ぎた軽度・中度の知的障害者および身体障害者の医療費を、福祉医療制度の助成対象にできないか。

**回答** 助成対象をそのように拡大した場合、約7億500万円を市単独で負担することになる。条件付きの助成を含めた助成対象の拡大については、県の制度の

見直しや国の医療施策の動向を見ながら、本市の財政面も含めて慎重に研究する必要があると考えている。  
**質問** 責任を持って猫の世話をしている地域への支援は。また、本市における地域猫活動の現状は。  
**回答** 本市では、地域猫活動に取り組み区長や環境保健委員からの相談・申請が



### 障害者雇用 親世代

荒木 征一  
(たかさぎ未来)

**質問** 障害者の就労について、本市職員の雇用状況は。

**回答** 本市では、高崎市障害者活躍推進計画において障害者雇用率の目標値を設定しており、令和5年6月時点の雇用率は目標を上回っている。障害者を対象とした採用試験を正規職員のほか嘱託職員についても毎年実施し、障害の程度に応じて適性のある職場に配置している。今後も職員が特

あつた場合、猫の不妊・去勢手術費助成の上限頭数を拡大して対応している。この助成制度が地域で活用され、これまでに15頭の不妊・去勢手術につながっており、引き続き地域からの相談に対応するとともに、制度の周知・啓発に努めたい。



### 本市の農業 長壁真樹

長壁 真樹  
(新風会)

**質問** 農業者の所得向上や規模拡大への支援について、本市の取り組みと実績は。

**回答** 本市では、農業者の所得向上を図るため、農業者新規創活動事業補助金による支援を行っており、6次産業化とブランド化の事業を合わせると、令和4年度までに市内全域で213件、榛名地域で80件の活用実績がある。また、荒廃農地を活用して規模拡大を図る農地再生推進事業では、令和3年度の制度創設から現在までに、約30・3ヘク

タールの農地が再生された。また、メロンを栽培するビニールハウスについては令和5年12月、管理棟兼作業棟については令和6年3月の完成を予定している。ビニールハウスの完成後、令和6年9月頃まで試験栽培等を実施し、実際に作業する内容等の整理ができ次第、本格的にメロン栽培を開始する予定である。

